



碧南ロータリークラブ週報

第2245回例会 平成16年11月17日(水) 晴. 最高17.6℃. 最低6.7℃

- 会長 池田 弘孝 ● 幹事 黒田 昌司 ● SAA 小笠原良治
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp/>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 鶴田光久・杉浦昌裕・石川唯司・竹中 誠

ロータリーを
祝おう

100年の歩み

2004~2005年度
国際ロータリーのテーマ



● 斉 唱

ロータリーソング「今日も楽し」

● 本日のメニュー

和風弁当 とんがり帽子

● 本日のお客様

(株)葵製茶 代表取締役 本田綾乃様



池田弘孝会長

会 長 挨 拶

本年度の地区大会が11月13、14日豊橋で開催されました。当クラブからは大勢の方々にご登録頂きまして有難うございました。会場に行きますと近隣クラブ会長との会話の初めは、今日は何人ご出席ですか、ではじまります。碧南はバス1台で参加しましたと、答えることが出来ました。大いに面目を保つことが出来ましたことを感謝申し上げます。それに引き換え今年の記念品はありませんでした。その理由は地区大会の費用の中からロータリー館建設基金に400万円寄贈と相成りましたのでご理解を賜りたいとのことでした。

R I 会長代理は大阪大学名誉教授であり2660地区パストガバナー千里ロータリークラブの近藤正臣氏が挨拶されました。過去100年から何を学び、何を反省し、そして今後何をなすべきか、今後とも変えてはならないものは何か、また、変えなくてはならないものは何かを的確に把握し、それを勇気と決断を持って実行に移さなければならない。それが真に100年を祝うことに通じるといわれました。日本は世界に2番目にお金を出しているからもっと意見を主張しなさいとも言われました。

私個人的に感じましたのは、全てにおいて簡略化された地区大会であったと感じました。来年はもっと変わるそうですが、新入会員の方々に積極的に参加して頂くとよろしいんだがなと思いました。

今日は日本で2番目のクラブ大阪ロータリークラブが誕生した日であります。1922年11月17日に1349番目で登録承認されました。シカゴの庶民の中から生まれたロータリークラブが、日本において東京、大阪の一流の実業家、名士のなかから選ばれた人たちによってまず受け入れたという事は、きわめて特異なことであったようです。

幹事報告

他クラブの例会変更等につきましては、お手元の資料の通りです。

11月10日の理事会報告を申し上げます。10月度の収支について満場一致で可決されました。本日指名委員会を例会終了後302号室にて開催します。

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 75 名（内出席免除者 15 名）出席者53名	
出席対象者 45/60名	出席率 75.0 %
欠席者22名(病欠者0名)	前々回修正出席率 100 %

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

本日の卓話の講師本田綾乃様

(卓話のお礼をニコボックスに頂きました。)

池田 弘孝君 本年度の地区大会に大勢の皆様の登録並びにご出席頂き有難うございました。

黒田 昌司君 地区大会無事終了致しました。皆様に感謝申し上げます。

地区大会では伊藤正幸さんに大変お世話になりました。

清澤 聡之君 清澤満之記念館を紹介します。ご招待券を入れました。お越し下さいませ。

岡本 明弘君 本日の卓話の講師を紹介させていただきます。

早退13件 合計33,000円

卓話

「お茶で健康づくり」

榎葵製茶 代表取締役 本田 綾乃様

11月19日20日と西尾市で、全国茶サミット愛知大会が、開催されます。

西尾市は、抹茶生産量日本一、全国の40%を作っています。テーマは「緩急自在」です。日本の緑茶は永い歴史と先人のたゆまぬ努力により今日まで育まれ、日本文化の根幹を成す「侘び・寂び」と「絢爛豪華」な世界の建築や「薬事効果」による社会的な貢献を図ってまいりました。我々は競争とストレスの蓄積する社会環境の中では生活しています。そんな中、如何に過ごすかを考える「スローライフ」という暮らしが叫ばれています。今まさにお茶文化が時代要請に回答して行くかが課せられていると考えます。「緩急自在」は、スローとファーストを生活の規範にどのように位置付け人間性の確立を図るかがテーマです。ぜひ、お出かけ下さい。



まずお茶は、中国との関係から始まります。紀元前700年頃「神農」という方が、毎日薬草70種類を集め、調べ大変忙しい日々を送っていたそうです。その方が疲れ夜寝るときに緑茶を食べると安心して寝れると言われていたそうです。この時代でも、お茶は薬用と、とられていたようです。1191年頃臨済宗の栄西師が中国にわたり、日本に種を持ち帰り、京都の高山寺住職明恵上人がお寺の境内で育てたのが日本のお茶の始まりだそうです。当時中国ではお茶の新茶をダ

まずお茶は、中国との関係から始まります。紀元前700年頃「神農」という方が、毎日薬草70種類を集め、調べ大変忙しい日々を送っていたそうです。その方が疲れ夜寝るときに緑茶を食べると安心して寝れると言われていたそうです。この時代でも、お茶は薬用と、とられていたようです。1191年頃臨済宗の栄西師が中国にわたり、日本に種を持ち帰り、京都の高山寺住職明恵上人がお寺の境内で育てたのが日本のお茶の始まりだそうです。当時中国ではお茶の新茶をダ

ンゴ状にこねて硬く丸めただんちゃと呼ばれたものを、こそげて煮出して飲んでいた。美味しいものではなかったようですが、疲労感を取除くといわれていました。

中世安土・桃山時代は、お茶というのは様変わりしまして封建時代大名、僧、商人の権力者の中で形作られました。千利休を代表し人間・水平・平等である考えの「茶の湯」の文化が育ちました。その心は「侘び・寂び」だそうです。それは完全なるものの美、その向こうに不完全の物がある。その不完全の物を通り過ぎると完全の物がある。自然美と人為的に作られた美が、自然の中に取り込んで、すばらしい美を作り出すことだということだそうです。

近世になりますとお茶も一般化してきました。1271年実相寺の境内に開祖聖一国師が茶種を蒔いたのが西尾茶の始まりで生産が本格化したのは、明治5年（1872年）稲荷山の麓にある紅樹院の住職足立順導師が、宇治から茶種と製茶技術を導入し、今日に至っています。

「茶の湯」というものがものすごく女性に普及してきました。立ち振る舞い、道具の使い方などの礼儀作法を学ぶということです。健康によいと、お茶は薬だと2000年前から言われてはいたのですが、最近では、学術的・医学的に証明されてきました。毎日飲んで健康になる茶の成分とは、渋味「カテキン」は、発ガン抑制・転移抑制・ガン細胞を自殺させる・血中コレステロール・血糖抑制作用、「カフェイン」は疲労感・眠気の除去・利尿作用、「ビタミンA・C・E」「フラボノイド」朝鮮人参・紫胡などの主成分とされている「サポニン」も含まれており、アレルギー疾患、ダイエット、肌の老化防止、日焼け防止、老化防止、殺菌効果による食中毒抑制、風邪予防等の効果が上げられます。そして、お茶に対する研究が、取組まれておりお茶の未来はまだであると期待しています。

**次回例会案内 12月1日（水）「年次総会」
理事及び役員選挙**